

# やまゆり

学校だより

令和5年9月8日  
39号  
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」  
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー  
校内研究重点 「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級・学校」・「保護者・地域連携」

## 「道の駅どうしでの太鼓発表」が新聞で紹介されました

9月3日(日)に保護者の方々にもご協力をいただき、道の駅で発表した七里太鼓の演奏を昨日の山日新聞で紹介していただきました。

生徒は、「太鼓演奏だけでなく、村の情報を発信できる場にもなった。地域に貢献できていたらうれしい」と話していたという文章がありました。全校生徒28名が参加した生徒の一生懸命な発表を記事にさせていただき、教職員も皆で喜びました。保護者の方々のご協力に感謝致します。

### 当日参加して頂いた方の感想を紹介します

生徒たちの純粋さが伝わるとても良い演奏でした。胸が熱くなり、涙ぐむほど感激しました。見に行っって本当に良かったです。

### 9月7日(木)の山日新聞の記事



### 学校で取材を受ける生徒会役員



学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級・学校づくり」

若鮎祭の取り組みを通して、主体性や協働する力等を育む

8月28日(月)から10日間の若鮎祭特別日程で取り組みをしてきました。いよいよ、明日から若鮎祭が始まります。そこで、4月からの本校の「生徒と教職員の取り組みの成果」を紹介します。

### 1 安全・安心な若鮎祭・学校教育の取り組み

- ①過去最高の猛暑の中で「熱中症」対策→職員研修・暑さ指数・「熱中症予防集会」等
- ②感染症対策 現在県内の「インフルエンザ・コロナ等の感染症」の小中学生800名以上  
→「感染症対策・三密回避」等で、現在生徒の感染者はゼロ。
- ③教職員の働き方対策→1ヶ月の残業時間45時間以内・80時間過労死ライン・組織対応
- ④いじめや不登校対策  
→生徒の能力差が大きく本気になる学園祭はいじめ・不登校の可能性大  
「いじめの減災集会」実施・「学園祭中にいじめの認知・不登校無し」

### 2 本校を含む全国の小規模校・単級の課題・弊害

- ①学級編制ができない9年間同一メンバーの弊害→能力差・私的關係等による階層的序列
- ②傷つかないために付度・同調・異なる意見を言わない・関わらない等の安定第一
- ③静かで素直→指示待ち・発言しない・表現力低い・人の目や評価がとても気になる
- ④言われたことをしていることで満足→主体的に行動しない・挑戦しない
- ⑤階層的序列は、いじめや不登校が起きやすく、解決がとても難しい→いじめ認知65万件  
不登校24万人

### 3 単級の弊害を改善し単級の良さを生かした本校の取り組みと成果 ※全国的にも貴重な成果

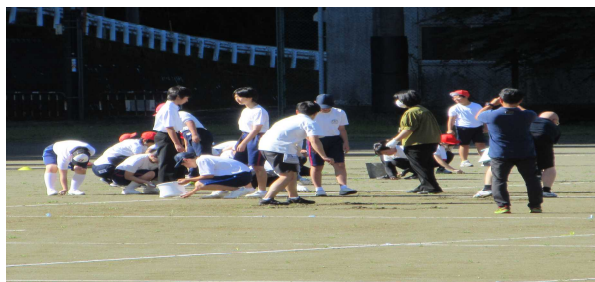
- ①本校の各学級の「満足度」は山梨・全国でもトップクラス。しかも、「学年間に差が無い」  
→「安定して活性化した集団づくり」を学年担任制・全職員の「組織で実践」する
- ②「安定していて活性化した集団」を構築し、「持ち上げる」と成果がさらに高くなる  
→吉田高校の理数科や私立の高校では学級の持ち上げを実施。しかし、とても難しい
- ③いじめや不登校対策は業務の優先順位の1位で対応し、いじめ認知・不登校なし  
→山梨県・全国ではいじめや不登校の問題はどこの学校にもあり、しかも重大化している
- ④「私的な特定化信頼」を「公的な普遍化信頼」に変え、生徒が一丸となって活動し、お互いや、多様性を認める人間関係の構築。他者を尊重し協働して新しい考えや文化を創造する
- ⑤主体性向上→一人一人が思いを表現し、合意したり自己決定したりしながら活動を推進
- ⑥挑戦・創造性の推進→毎年、新種目やバージョンアップした活動 「先輩を超える若鮎祭」
- ⑦小中連携→例:1年生 小学校での安定を基盤に、主体性や協働性がとても向上している

学校教育重点目標 「小・中連携の推進」・「豊かな心の育成」

## 児童・生徒・教職員でグラウンドの石拾いをしました

9月5日(火)に道志小学校の全校児童・道志中学校の全校生徒・小中全職員でグラウンドの石拾いをしました。今後の若鮎祭・運動会を前に、自分たちが使うグラウンドを自ら安全に使用するために協力しました。この企画は、道志中学校生徒会と道志小学校児童会が中心となって活動しました。「行政や地域の方々、保護者の方々のご協力は頂いている。しかし、生徒や児童はグラウンドの環境整備をしていないので、短時間でも小中で協力して安全な環境を創りたい」という生徒会役員の声を受けて実行しました。「安全教育」や「みんなのために努力する豊かな心の育成」として小中連携した教育を実践しました。自分たちの活動を支えるこの体験を通して、改めて行政や地域・保護者の方々のご尽力が実感できると思います。また、若鮎祭を支える仕事として事務職の上芝先生や司書教諭の深澤先生、教頭先生、メビア先生等が生徒や若鮎祭を準備段階から支える活動や仕事をしていることも理解していただきたいと思います。

### 児童・生徒・教職員の活動の様子



学校教育重点目標 「小・中連携の推進」・「豊かな心の育成」

## 「小・中音楽交流会」を実施しました

9月7日の午後から、「小中音楽交流会」を実施しました。若鮎祭を前に、七里太鼓の練習をしてきた中学生の演奏を道志小学校の児童と先生方に聞いていただきました。9月3日の演奏も気持ちを込めた演奏でしたが、昨日の演奏は一段と気持ちを込めた気迫ある演奏でした。

1年生の「富士三段返し」、2年生の「流鏑馬太鼓」、3年生の「雷太鼓」、全校での「若鮎太鼓」の4曲を約45分で演奏しました。小学生の聞く態度も良く、児童会長の杉本さんのお礼の言葉もとてもしっかりしていました。一生懸命な態度や音楽の素晴らしさを感じてもらえたと思います。

児童の様子



挨拶をする生徒会長



お礼の言葉 児童会長



全校演奏の若鮎太鼓



1学年発表



2学年発表



3学年発表



